

釧路工業高等専門学校
創造工学科教授(工レ)
クトロニクスコース電
気工学分野)

小松 正明

高専とは何か、高専の魅力

私が釧路高専に着任した2010年9月、年度の途中でしたので卒業研究生(卒研生)を預かることはありませんでした。ある研究室で卒研生と就職先について話したところ、電気工学科全体で数名の学生が電力会社に内定していることを知り、大変驚きました。私の知る限り、大学で電力会社に就職できるのは優秀な大学院生だけで、それも電力会社とコネクシオンがある特定の研究室に偏っています。大学学部4年生が電力会社に就職できる話は聞いたことありません。

それなのになぜ高専生がこんなにも電力会社に就職できるのか、不思議でなりませんでした。これはその後、私が北海道地区の電気学会役員を拝命し、電力会社の方々とお話しできたことでよく理解できました。私の昨年度の卒研生は東京電力に就職、他の研究室からの卒研生も北海道電力、中部電力、電源開発、などの電力エネルギー関連会社、その他大手企業へ就職し、就職率100%、今年も求人はい学科600社

旭川にあります。以上、この状況は何年も変わりありません。

このことを理解するには高専とは何か、をあらためて説明しないといけません。さて、釧路高専は2016年で開学50年を迎えます。16年で開学50年を迎える

②

「国際交流から宇宙へ～高専の魅力」



本科5年の電気工学専門実験の様子。

世界的産業創出 地方から

釧路高専では約70%が就職、約30%が進学(専攻科進学含む)を選択しています。関東首都圏の高専は、進学率が約55%に上がりま

高専の魅力は卒業後にあると思っていま

高専の教育を支える教員は研究者でもあり、国内・海外学会の会員として、研究成果を国内、海外の学会

私の経験からもこれまでたくさんの高専卒業のエンジニアや研究者に出会っています。JAXAで、国際宇宙ステーションの設計で大変お世話になった三菱電機の部長さんは高専出身、JAXAでもたくさんの高専出身の職員が活躍していました。私が所属する米国内務省で、日本人と電気電子学会で、日本人と電機エンジニアを務める優秀な企業エンジニアも高専卒業。学会で出会う研究者も、私が高専教員であることを知ると、自分は高専出身であると紹介してく

高専の魅力を理由での留年が多いとされるのがありますが、このような厳しい姿勢も、企業側にとっては卒業生の質を保証することであり、企業からは篤い信頼を寄せていただいていると感じます。

釧路高専には「釧路高専地域振興協力会」という地元企業101社からなる組織があります。地元就職する卒業生も多く、いわば釧路高専の応援団です。釧路高専はこれまで50年以上にわたって道東地区の工学系高等教育機関としての役割を担ってきました。今後の夢は世界で戦える産業を地方で生み出す、そんな地方創生の拠点としての活躍を願っています。(次回は6月4日付に掲載)